第１章　調査概要

１．調査目的

本調査の目的は、家庭から排出される家庭系ごみ（可燃、雑がみ）、事業所などから排出される事業系ごみについて組成割合を調査し、ごみの排出状況を把握するとともに、更なるごみの減量化・資源化推進のための基礎資料とすることである。

２．調査実施内容

①　事業系ごみ

【実施日】　令和元年７月19日（金）
【調査場所】　弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井6-2）
【季節】　春・夏・秋・冬
【採取量】　200.5kg
【気温（平均）】　22.4℃

②　家庭系雑がみ

【実施日】　令和元年７月16日（火）
【調査場所】　市内古紙再生業者
【季節】　春・夏・秋・冬
【採取量】　276.1kg
【気温（平均）】　20.8℃

３．調査手順

（１）試料の回収

①　事業系可燃ごみ

調査対象の集積所から市職員がごみを回収し、指定の場所に搬入する。

②　家庭系雑がみ

古紙再生業者へ持ち込まれた資源物を施設担当職員の誘導のもと、指定の場所に搬入する。

（２）分類及び重量の記録

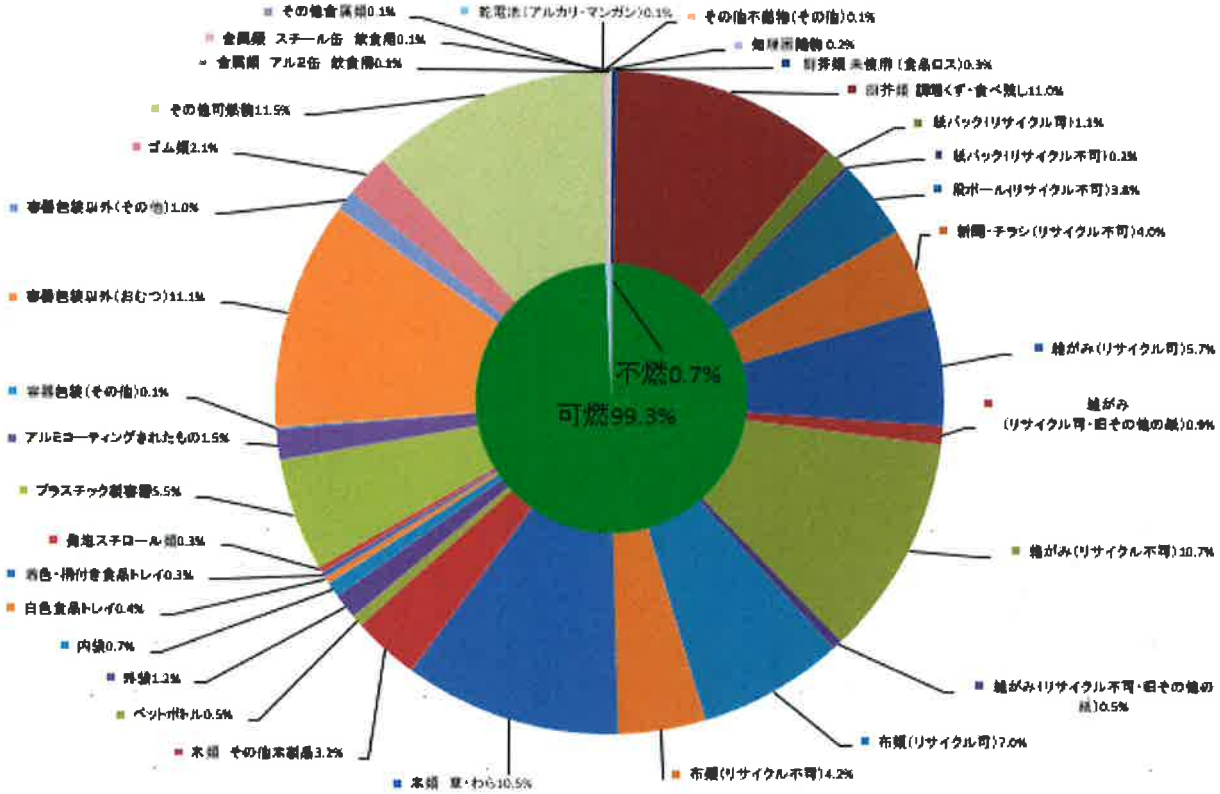
搬入された試料の分類を行い、組成区分ごとに重量を計量し、記録する。

第２章　調査結果

①　事業系可燃ごみ

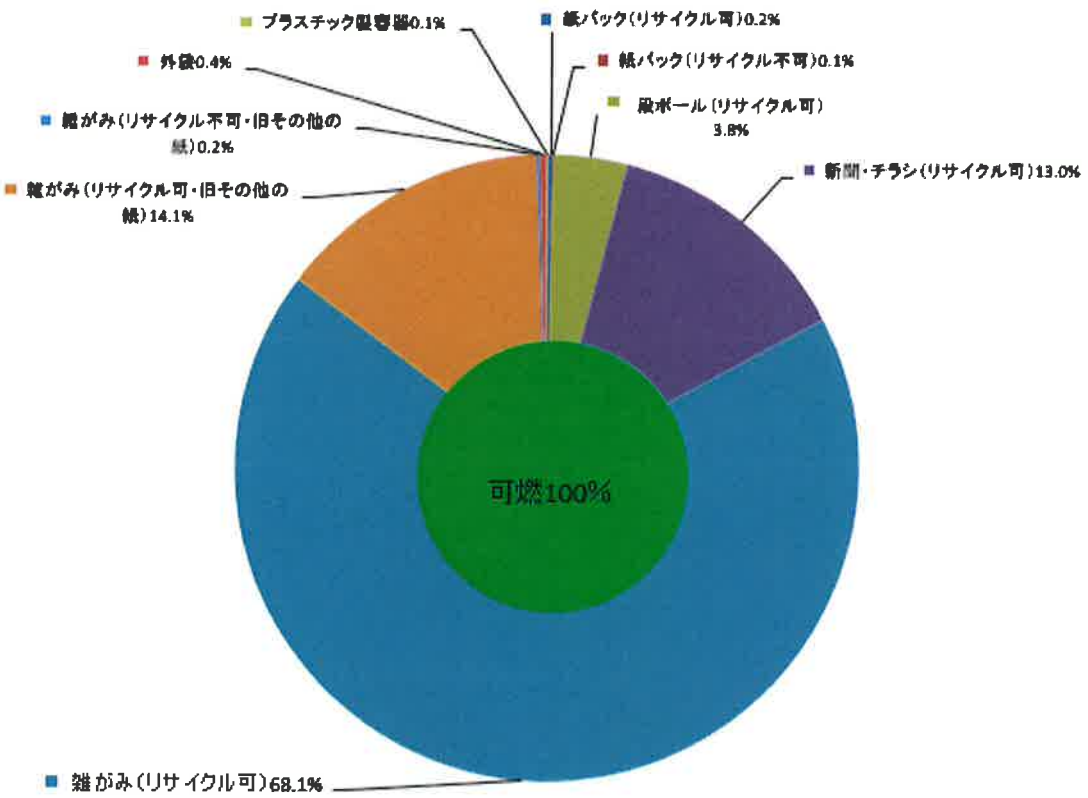
今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(26.9%)、「プラスチック類」(22.6%)、「木類」（13.7%）、「その他可燃物類」（13.6%）、「厨芥類（生ごみ）」（11.3%）、「布類」（11.2%）の 6 種であり、全体の約 99.3%を占めていた。個別に見ると、「その他可燃物」（11.5%）、プラスチック類（容器包装以外）「おむつ」（11.1%）、厨芥類（生ごみ）「調理くず・食べ残し」（11.0%）の割合が高かった。



事業系可燃ごみの過年度との比較

② 家庭系雑がみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

割合が高かったものは「雑がみ（リサイクル可）」（68.1%）、「雑がみ（リサイクル可・旧その他の紙）」（14.1%）、「新聞・チラシ（リサイクル可）」（13.0%）の３種で、全体の 95.2%を占めていた。